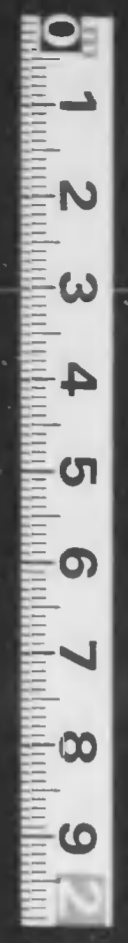


寫眞週報

編輯部情報閣内
十月十九日・第六十號



戦
馬
の
心

漢口へ二十五里



國新の街を前に見て氾濫した白沙水は急流の連綿を結ぶが、わが工兵隊はこれに屈せず、敵前築橋二千米といふ世界歴史に例を見ない大作業を遂行した。



富國徴兵

銃後の強化

徴兵保険
出屯保険



本社
東京日比谷

富國徴兵保険相互會社



遂に、南支の一角にわが海軍精鋭部隊の揚陸進撃のすゝむとき、
 今や漢口の数は驚きんとす。
 即ち、江南線に於ては、徳安を中心とする張發奎麾下の大軍は
 卓軍の若漢占領により武漢との連絡をすでに絶たれてゐたが更にわ
 が軍の臨口街占領は敵に致命傷を與へた。一方、江北線に於て
 は、攻漢線の進撃について連絡はあち、蘇州西安の赤軍との連絡を
 断たれた敵の武漢防衛は孤立の窮地にふちり、卓軍はすでに大別
 山系の分水嶺を越えんとしてゐる。
 卓軍包圍下の漢口まで、もう、あと廿五里！



人かげもない江戸湖沼をわが艦舟
 は静かな水音をたて、滑る。架橋前
 の水深調査だ。速くの砲聲に交つて
 沈滞は相變らず絶えない。

しはし休憩の後、新たな進撃にう
 つる一瞬前の作戦命令。

雲深の敵軍に對する友軍の的確な
 猛攻撃を觀察する。二千米、土煙と
 ともに地響が秋空をゆるがす。どろ
 だ、うまくいつるか一と部隊長は
 悠々煙草を一服。

雲深攻戦に奇功を
 奏したわが部隊は更に
 某方面に進撃を開始し
 た。

撮影
 阿部映畫部

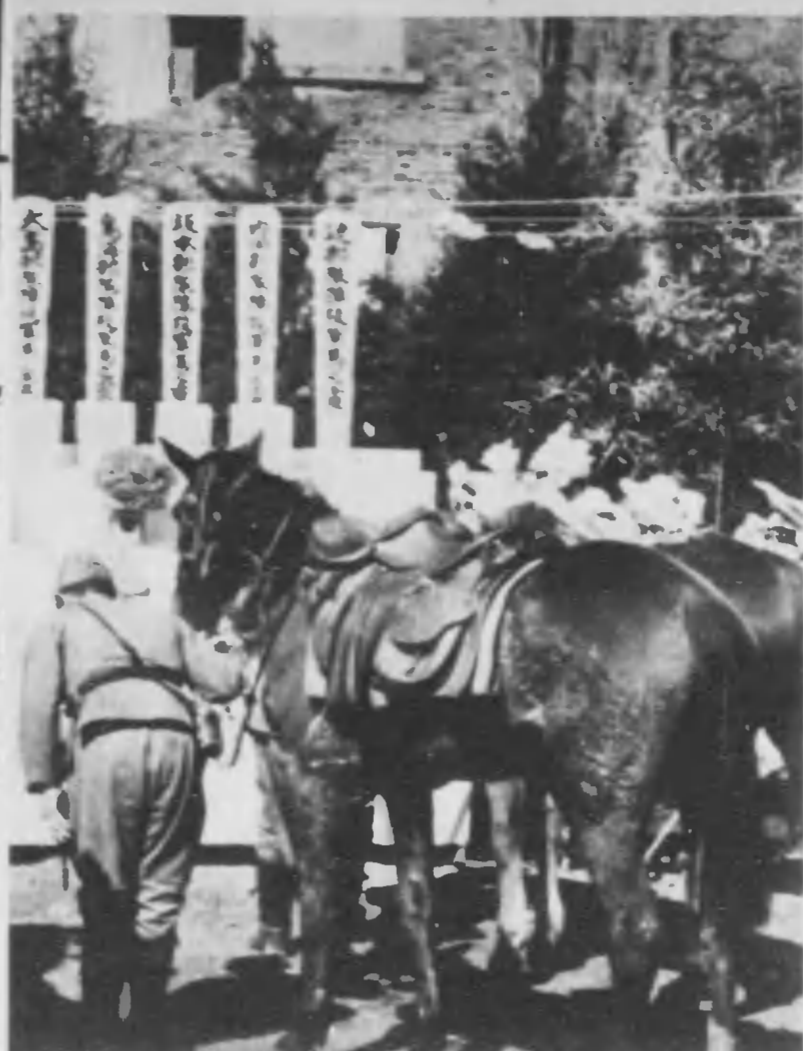
機關銃身は大
 のそらに灼け、
 わが身は汗とほ
 こり、陸敵の急
 迫。





一東の枝豆

前線から後方連
絡本部へD部隊特
派員Aは急いで
た。秋の陣は勝
のすゝきの種を
かに色染めて山
の頂に沈まるとし
てゐる。落葉とし
たもの淋しさ、街
道はづれの村落か
らこぼれぬ山芋の
長江の川風がAの汗とほこりの襟元をそと秋をしのば
せる。Aは面白くない道を黙ってポタポタと歩い
た。秋。栗。柿。楓葉。どたら。温泉。Aは故郷の妄想
を黙ってゆく七塊に夢みながら歩いた。
「新聞社の方ですか？」
「誰も居ないと思ひ込んでゐた右手の畑から日本語が飛
んで来た。
「さうですよ。どうかしたんですか？ 兵隊さん」
「こいつがね。馬がね、馬がまるちまつたんだ。記者
殿ビストルを持ってますか？」
「持つてるよ」
Aは道端の溝を飛び越して畑の中に入つていつた。
馬がいつた時、夕陽にうごめく巨大な泥のかたまりの



横隊を見た。たて髪は土のよさになつてもつれ、半身は
土中に消え去つてゐる。間歇的に胸の肉を喰ふ聲が保
かに生ものであるのを示すのみで泥塊としか受けとれな
い愛馬の傍。そこを一人の特務兵は去り兼ねてゐるのだ。
「ひとと思ひね、スドンと一發やつてやつたらとね」
「よし拳銃を貸さう。安全をはづしてあるよ。すぐ撃て
るから」
特務兵は泥だらけの手でAから拳銃を受けると無言
で頭元に中腰になつた。ねらひをつけてみた。トラック
が四、五臺積りて街道を走つた。砂塵が兵から馬をかく
した。兵はベツとつばを吐いて再び銃口を凝視した。その
時まで決して動かなかつた馬の眼が、血のにじみ出た眼
が、かすかに動いて彼を見上げた。
「いけね、見やがる」
特務兵は黙つて拳銃をAに返へした。そして横ごと引
き抜いて来た枝豆のひと束を愛馬の口元に山と積んだ。
「これで二分はあるだらう。ね、記者さん」
二人は黙々と街道を並んで歩き出した。大きな鳥が二
羽西へ飛んだ。日は暗んど暮れてしまつた。何の物音も
ない。
「あの豆を食ふかしら」特務兵は突然きいた。
「食ふよ」食へるものか。暗んど死んでゐたぢやないか
明朝まで持つまい、とAは思つたが
「食ふよ兵隊さん。大丈夫」といふ一度答へた。
特務兵はそれは答へずに、
「記者さん、二年前の今日ね、私は長女を亡した日で
して……」

こちらも捕つて芋の
糞馬も故郷を思ひ出
す。生の芋は愛馬の口
へ、焼いた芋はわが口
へ。
主従揃つて日傘で御
座る。伊達な支那笠、
チト顔が長過ぎた。
名譽の戦死をとげた
馬の慰靈祭が戦地でも
催された。戦友馬も静
かに聞く。



「よくもここまで使
てくれた」水筒をかた
むけて吞ます末期の水
撮影 雑知新聞社
及・同慶通信社



甲功章
旭柄號

昭和〇年〇月〇日陸軍馬トシテ戦役セラレ支那軍ニ從軍ス。
湖東會戰湖州附近ノ戰闘ニ於テ〇隊長乗馬トシテ湖州入城部隊ニ友
馬一頭ト共ニ連絡ノ爲先任ヲ帯ビ、十八里湖西方ノ隘路ニ差掛
ラントセシ時、突然敵五ノ手榴彈ノ狙撃ヲ受ケ約六七米ノ前方
ニ着弾セル音響ニ性鋭敏ナル旭柄號ハ驚キ急遽反轉セントシタル際
重砲車輪ニ右前脚ヲ落シ倒レ左腹部ニ手榴彈ノ小破片ヲ受ク。
同時ニ〇隊長モ轉落シ彈片ノ爲顔面ニ輕傷シタルモ意トセス愛馬ト
鮮血ヲ忘レ、徒歩ニテ敵ニ肉薄シ逃グルヲ追ヒテ二名ヲ斬殺軍退
約一時間ノ後前線ニ引返ス。途中旭柄號ハ〇隊長ノ連マール方向ニ
鮮血ニ染レナガラ主ヲ求め追ヒツツ小橋茂レル約一里ノ道ヲ歩
ミ米リ、〇隊長ノ衣ヲ認メルヤ聲高ク嘶キ英氣ヲ返シテ返シタル如ク
急キ駆け來リ、如何ニモ懐シ氣ニ短ヲ握リ寄セ安堵ノ様子ヲ表ハセ
リ。其ノ衣ハ物コソ官ハネ人ノ情ト何等異ナラズ、思ハズ見ル者ヲ
シテ涙ヲ催シメ語ヲサル勇士ノ殊勳トシテ稱ヘラレタリ。

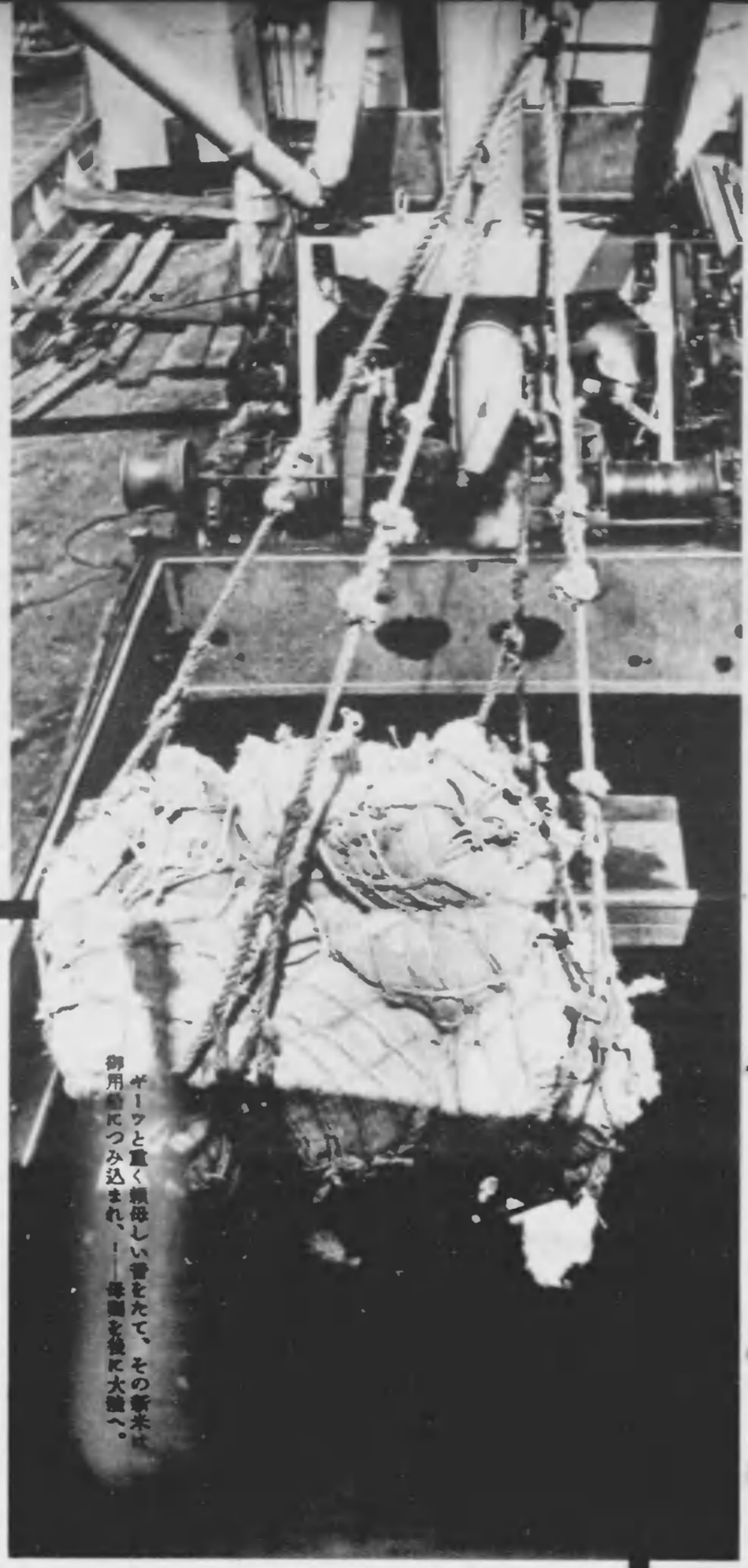
戦場へ新米を



主なくもたわに買つたこの新米、妻の重荷が肩で鳴る。「坊やこひとよさトーさんに送らうわ」



とれたばかりのつややかな甘い新米。そのうち政府買上米が東京豊川の米穀倉庫に山とつまれた。



ギョウと重く煩悩しい音をたて、その新米、御用船につみ込まれ、一尋常を後に大戦へ。



軍用列車に押されて前線へ。新米は故郷の香をのせて急ぐ。大和魂にはどうしても日本米。

妻の肩から夫の肩へ、實りの秋から戦場の秋へ。山路にかゝる重くの重味に戦地の夫は妻子を思ふ。



軍の糧秣廠に契約された政府買上米は野で御用船に。大戦の兵隊さんにはバリの日本米だ。

勇士の妻から戦地の夫へ

御無沙汰しました、お變りありませんか、ご元氣で日夜御奮闘のこと存じます、こちらはみんな元氣、ご安心下さい、さち子がこの間四日ほど風邪で休んでおりましたが、今日は學校の運動會だとして勇んで家を出て行きました、坊やは私と一緒に野良仕事です。

わたしも今日は、やうやくと、いれが終りホツとしたところ、それにつけても村のみなさまの御親切には有がたくて涙がこぼれます、今年は大旱や大風がたび／＼ありましたが、幸ひ村はほんとど福袋といふほどのものはありませんでしたから御安心下さい、それどころか村では秋後農村の生産力は絶對に減退させてはならないと、村長さん農會長さん校長さんをはじめとして、勤勞奉仕團がつくられ、田植えの時大へんお世話になつたことは前にも申しあげたと思ひますが、こんどのとりいれの時は自分たち内地に残つてゐる者の家より勇士の家のとりいれが先だといつて、處女會のひとたちまで何班にも分れて出勤され、うちの田もははたど脱穀機の手廻しをすてつただけでございます、ほんとに皆さまに何から何まで平つていただいてこんな有り難いことはありません、あなたさまからも、戦地おひまの折はみな／＼さまにお禮の手紙を書いて下さいませ、

撮影 梅本勇男・同通信社



見よ！試練の日本 銃後の方

司法省

過日未曾有の大豪雨で甚大な災害を蒙つた神戸の復興に、管下諸向者たちは自らの災害をも顧みず、土砂に埋つた同市赤松四丁目尋常小学校に出動し、土砂運搬に汗を流した。



戦線に働く臺灣本島人
今事變勃發以來臺灣本島人の皇民化運動はいよ／＼さかになり、眞剣に日本人の生活を學び日本語を勉強するものが多くなつてきた。變遷がまわらぬ舌で愛國行進曲を歌ふのも珍らしくない。これは聖戦一ヶ年を經ていよ／＼國體の尊嚴と日本國民たるの幸福に感激したためである。だからこそ、銃後の臺灣が南方の據地たることを誇りその開發に邁進するばかりでなく、身を挺して戦線における軍夫(特務兵)の様な任務をもつたらんと志願してやまないのである。前線又前進する第一線を追ひ、たえず敵の後方擾亂ともたかひながら汗にまみれ、血潮に染まりながら敢然と進む。涙ぐましい姿こそ正に新しき臺灣人の姿であらねばならない。

1 野戦兵站部では臺灣の軍夫たちが彈藥糧食の運搬に奮闘する戦士たちにうまい晩食を食べてもらはうとその準備に大奮。
2 われらまた日本人と自覚した本島人は長蛇の如く進撃部隊の後を追ふ。
3 これから自分たちの勤務だとか朝めしを終へて飯食洗ふ軍夫たちの手も忙しい。
4 慰問の手紙を一杯につめこんだ袋と一緒に強冠りが持ちこまれると戦士たちは依孺して迎へる。瞬間軍夫たちの眼にはキラリと涙が光る。



新河縣柏崎町に設置される傷痍軍人療養所敷地工事勤務者十五名。今、傷けた戦士の心を心とし、高く掲げられる國旗の下に願う。
新河縣療養所

神戸市が水害に襲はれるや、大坂市下の轉向者たちは復舊奉仕に献身、汗みどろれぬ手にシヤベルを握り、汗みどろれぬ手にシヤベルの精神を遺憾なく發揮した。
大坂保護團事務所



貯金は戦時經濟強化の意地から大きな國家的の意味をもつ。その意味を理解した轉向者達は率先して貯蓄報國に専心してゐる。
京都保護團事務所

刑を了へて今は戦場に男々しく赴へり、軍務に精勵する人も多いこの秋こそ官城刑務所でも牧畜者に昇格する未来に備ふべく心身鍛錬にいそむ。
京都刑務所



LZ130成る!

昨年五月、ドイツ航空界が世界に誇ったツェッペリン航空船LZ129ヒンデンブルグ號がアメリカの空港レークハーストで不幸墜落、一瞬にして幾多の生命とともに焼失して去つて以来、世界航空界は航空船の将来をますます疑問視するやうになつた。

然し、不屈のドイツ精神はこの失敗にもめげず、更に雄偉を以てエッケナー博士指導の下にフリードリッヒスハーフェン造船所で新造船LZ130の建造に着手、今や一年有餘の苦心は成りふた、び大西洋航空路に斬らしい雄姿を見せるのも近い將來であらう。

Graf Zeppelin



↑ ツェッペリンの命名式、エッケナー博士によつて九月十四日厳かに命名された。

□ 豪華な観音堂、食堂もつて近代設備は至れりつくせりである。



□ 命名式の日のエッケナー博士



□ 最後の仕上げ、御化粧中のツェッペリン



□ ツェッペリンの操縦室、操縦士がこの送話管で操縦室に命令を出す。



写真協会

新建造のツェッペリン航空船LZ130は焼失したヒンデンブルグ號とは同様の設計になるもので、全長二四五メートル、幅四一・二メートル、ガスの容積二〇〇、〇〇〇立方メートル、積載全重二〇〇、〇〇〇キログラム、推進用發動機は、八〇〇乃至八五〇馬力、ディーゼル發動機四基、最高時速一三五キロである。

LZ130が誇るところは發動機の排出するガスから水を作り、これによつて荷足の不足を補つてゆめ装置である。元來、飛行船ではその動搖を防ぐために砂囊その他の重さをつけておるが、飛行時間の経過とともに消費される燃料の重さだけ船體が軽くなつてその動搖を防ぎきれなくなつた。が、この装置によれば、消費される燃料の重さに近い水が生産されて荷足となるから、船體重量の均衡が保たれることになり、又着陸の際にもガスを不必要に放出せずすむわけである。尚客室は以前と異り、船體内に設備され、気象には不燃炭瓦斯を使用する。

LZ130の試験飛行は、九月十四日フリードリッヒスハーフェン上空で行はれた。銀色の巨船は紺碧の秋空をきつて悠々九時間の旋回飛行をつけ、大成功裡にレウエンタール空港に着陸した。



方彼の海

洲欧るぐめをコツエチ

ミューンヘンの英佛獨伊四巨頭會議によつて今にも戦火開くかと思はれたスデーテン問題は、遂にチェコスロバキアの屈辱で落着いた。寫眞はこれより以前二度目のベルヒテスガーク、老練を厭はずヒトラー、獨逸總統と接衝したチェンバレン英首相が、ロンドン近郊ヘストン飛行場に歸來、各國の新聞記者團に圍まれて挨拶してゐるところ。

スデーテン問題はフランスをして従來の均衡が破れた新しい歐洲情勢のうちにおかされた。結局自國の軍備以外頼るものがないフランスでは九月下旬スキースとの國境で實戦とほんど變らない陸軍大演習が展開された。



ボイランドでもドイツの對チェコスロバキア強硬態度を機會として俄然チェコスロバキア居住のボイランド少數民族を救へとの聲は高まりこの情勢に呼應してボイランド國軍の大演習がアレクシヤワを中心に緊強に展開された。寫眞は演習參觀の外國大使館附武官上田中佐の顔も見え

「チェコスロバキア政府はスデーテン地方をドイツに併合せしむべし。而してチェコスロバキア地方より進退せよ。」とのドイツ側の覺書は、スデーテン地方一帯の空気を發火點にまで緊迫せしめ、住民は、ドイツ人もチェコスロバキア人も先を争ひ、家財をまとめて避難をはじめた。下左はブラハ群に逃りつたチェコスロバキア難民、下右は國境を越えてドイツ國內に避難するスデーテン人、チェコスロバキアに比べてドイツの方がその避難にも餘裕のある有様が注目される。



同慶通信社・宣眞協會
九月廿二日、ヒトラー總統は群衆の歡呼を浴び、ゴータスベルクに到着、極力兵火を避けんとするチェンバレン英首相とひさを交へての會談に入つた。



純国産

病弱體を健康に
健康體を
より健康に

いつも丈夫で働けるやう
慣れない仕事に従事したり、或
は人一倍忙しい仕事に追はれ
て體力を餘計に使ふ人だちは
……丈夫な胃腸が必要です。

胃腸正に
スガキ

東京通報 昭和十三年二月十二日 第三三三三號
昭和十三年十月十九日發行 (第一冊) 毎六號

(本書の大きさは縦横A4・一冊) 価格